

保険・証券・その他金融

1. 評価対象企業（9社）

- 【損保】（3社） SOMPOホールディングス、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス
 【生保】（3社） かんぽ生命保険、第一生命ホールディングス、T&Dホールディングス
 【証券】（2社） 大和証券グループ本社、野村ホールディングス
 【その他金融】（1社） オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	5	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	7
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	6	29
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	8
計		21	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは18名（所属先18社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち **ESG関連**を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は72.7点（昨年度70.5点）、総合評価点の標準偏差は、6.2点（昨年度8.0点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3社）が78.2点（昨年度77.2点）、生保（3社）が68.8点（昨年度67.2点）、証券（2社）が70.7点（昨年度64.7点）、その他金融（1社）は72.0点（昨年度同点）となり、昨年度に比べ、証券が大きく上がった。なお、個社で見ると、大和証券グループ本社（+8.0点）およびT&Dホールディングス（+7.0点）の上昇幅が大きかった。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が72%（昨年度71%）、**説明会等**が76%（昨年度72%）、**フェア・ディスクロージャー**が80%（昨年度同率）、**ESG関連**が71%（昨年度69%）、**自主的な情報開示**が61%（昨年度62%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全21項目中、80%以上の平均得点率は次の3項目となった（**説明会等**の中の1項目(a)、**フェア・ディスクロージャー**の中の2項目(b)(c)）。

(a) 「決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものにな

っていますか」(平均得点率 80% [昨年度 76%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 60%台 1社・70%台 3社・80%台 4社・90%台 1社)

(b) 「経営陣および IR 部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか (報道機関等への対応含む)」(平均得点率 83% [昨年度 81%]) (得点率: 70%台 2社・80%台 5社・90%台 2社)

(c) 「ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供 (説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ) を日英両言語で行っていますか」(平均得点率 80% [昨年度 77%]) (得点率: 70%台 2社・80%台 7社)

⑤ 一方、次の項目 (経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目) は、昨年度に続き平均得点率が最も低かった。

・ 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 55% [昨年度 51%]) (得点率: 30%台 1社・40%台 4社・50%台 1社・70%台 3社)

⑥ ESG 関連の 6 項目は、次のとおりとなった。なお、(e)および(f)は、本年度の新設項目である。

(a) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目 (例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報) について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明されていますか」(平均得点率 73% [昨年度同率]) (得点率: 60%台 2社・70%台 4社・80%台 3社)

(b) 「社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明されていますか」(平均得点率 64% [昨年度 63%]) (得点率: 50%台 1社・60%台 6社・70%台 2社)

(c) 「資本政策 (資本コストの考え方を含む)、株主還元方針が十分に説明されていますか」(平均得点率 75% [昨年度 70%]) (得点率: 60%台 2社・70%台 4社・80%台 3社)

(d) 「中・長期経営計画 (ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他の KPI) を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率 73% [昨年度 69%]) (得点率: 50%台 2社・70%台 5社・80%台 2社)

(e) 「E (環境) に関する適切な目標設定、PDCA サイクルの実践、アップデートがなされていますか」(平均得点率 74%) (得点率: 60%台 1社・70%台 8社)

(f) 「S (人的資本を含む社会) に関する適切な目標設定、PDCA サイクルの実践、アップデートがなされていますか」(平均得点率 65%) (得点率: 50%台 1社・60%台 6社・70%台 2社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東京海上ホールディングス (総合評価点 82.4 点 [昨年度比 -1.0 点])

① 同社は、5 分野のうち 4 分野において第 1 位となった。具体的には、**経営陣の IR 姿勢等** (得点率 (以下省略) 87%)、**説明会等** (83%)、**ESG 関連** (79%)、**自主的情報開示** (78%) の 4 分野である。なお、**フェア・ディスクロージャー** (83%) は、昨年度に比べ得点率が下がり、第 3 位となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、5 項目のうち、「社外取締役との対話」(同得点第 2 位)を除く 4 項目が、第 1 位または同得点第 1 位となった。なかでも、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」は共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップをはじめ経営陣および IR 部門には積極的な情報発信、開示の姿勢が見られるとの声や、経営陣と IR 部門との意思疎通がしっかりなされているとの声が寄せられた。なお、最近の不祥事に関する開示について、迅速な対応を評価しつつも、さらに詳細な情報を求める声があった。

③ **説明会等**においては、6 項目のうち、「決算発表日」を除く 5 項目が最も高い評価となった。特に、「決算説明会における会社側の説明 (質疑応答を含む) や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」は、90%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会やその資料内容が充実しているとの声が寄せられた。なお、利益貢献の過半を占める北米事業について十分な開示を求める声があった。「決算発表日」は同得点第 7 位となった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。短期、中長期での業績見通し上有益な情報 (月次開示を含む)、ガイダンス

をプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していること」が同得点第1位（昨年度第1位）となったものの、昨年度に比べ得点率を下げた。また、「経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていること（報道機関等への対応含む）」も得点率が下がり、第3位（昨年度第1位）となった。なお、災害や不祥事について、ウェブサイトなどによる適宜のアップデートを望む声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」（第1位）および「資本政策、株主還元策の開示」（同得点第1位）が共に85%以上の得点率となった。これらに関連して、資本政策、株主還元方針が明確であり、予見可能性が高いとの声があった。「コーポレートガバナンス」の2項目は共に昨年度と同得点率であった。「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」（2項目）については、Eに関する項目は同得点第1位となり、Sに関する項目は第2位となった。これらに関連して、ESG関連の情報は充実しており、アップデートも適宜に行われているとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、DFGなどの海外事業説明会を挙げる声が多かった。

第2位 MS&AD インシュアランスグループホールディングス

（総合評価点 77.1点 [昨年度比+3.7点]、昨年度第4位）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（78%）、**ESG関連**（76%）、**自主的情報開示**（76%）が第2位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4位（80%）、**説明会等**が同得点第5位（77%）となった。昨年度と同率であった**フェア・ディスクロージャー**以外の4分野において得点率が改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「社外取締役との対話」が最も高い評価となった。「パンデミック、気候変動、サイバー攻撃などのリスクと機会に対する取組みを積極的に開示する姿勢が見られること」も同得点第1位となった。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」（同得点第2位）も評価された。なお、「経営陣のIR姿勢」（同得点第5位）および「IR部門の機能」（同得点第6位）は共に平均得点率と同程度にとどまった。これらに関連して、経営陣およびIR部門には積極的な情報発信、開示をする姿勢が見られるとの声が寄せられた一方、マネジメントスモールミーティングなどの経営陣のIR活動についてさらなる強化を望む声もあった。また、IR部門における十分な情報集積を求める声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（4項目計）が第2位（昨年度第5位）となった。なお、このうち「決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」（同得点第6位）は平均得点率程度にとどまった。これらに関連して、説明会やその資料内容が充実しているとの声が寄せられた一方で、図表などをより活用して理解しやすい構成にしてほしいとの声もあった。また、海外事業に関する開示の一層の充実を求める声があった。「決算資料・統合報告書等における開示」は同得点第5位となり、「決算発表日」は同得点第7位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（2項目計）および「リモートツールによる情報提供」が同得点第4位となったが、共に平均得点率と同程度であった。なお、災害や不祥事についてウェブサイトなどによる適宜のアップデートを望む声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」（2項目計）が第1位となった。これらに関連して、ESG関連の情報が充実しており、アップデートも適宜に行われているとの声があった。また、「コーポレートガバナンス」（2項目計）も同得点第1位となった。「資本政策、株主還元策の開示」（同得点第4位）および「目標とする経営指標等」（第5位）は共に昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、資本政策、株主還元方針が明確であり、予見可能性が高いとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していること」は、トップと僅差の第2位となった。充実していたイベントとして、IRDAY、ESG説明会を挙げる声が多かった。

第3位 SOMPO ホールディングス（総合評価点 75.2点 [昨年度比+0.5点]、昨年度第3位）

- ① 同社は、**ESG関連**（74%）、**自主的情報開示**（68%）が第3位、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第3位（76%）、

説明会等が同得点第5位(77%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第7位(76%)となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーの順位、得点率が下がった。

- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社外取締役との対話」が昨年度に比べ得点率を大きく上げ、同得点第2位(昨年度同得点4位)となった。これに関連して、社外取締役とのスモールミーティングを評価する声があった。一方、「IR部門の機能」(同得点第3位)および「経営陣の IR 姿勢」(同得点第5位)は共に得点率が下がった。「IRの基本スタンス」(2項目計)は同得点第5位となったが、そのうちの「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」は、平均得点率に達しなかった。なお、不祥事に関する十分な開示を求める声があった。また、CEO、COOの役割を明確にした積極的な IR 姿勢を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(4項目計)が第3位となった。また、「決算資料・統合報告書等における開示」は同得点第3位となったが、平均得点率と同程度であった。これらに関連して、図表などをより活用して理解しやすい構成にしてほしいとの声や、介護・データ関連事業に関する開示の適時のアップデートを求める声があった。「決算発表日」は同得点第7位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第4位となった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(2項目計)は同得点第8位(昨年度第3位)となり、平均得点率に達しなかった。これらに関連して、海外事業の利益に関する開示を評価する声が寄せられた一方、災害や不祥事についてウェブサイトなどによる適宜のアップデートを望む声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレートガバナンス」(2項目計)の得点率が昨年度に比べ共に改善した。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していること」は第3位となった。充実していたイベントとして、介護・シニア事業説明会を挙げる声が多く寄せられた。

なお、第1位の企業より、優良企業の受賞を辞退する申し出があり、本年度の当業種における優良企業は該当なしとなった。また、第2位および第3位の企業より、今後の「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」の評価に際して、本年度の評価を勘案することについて、辞退する申し出があった。

(注) 本年度の評価は、2022年7月から2023年6月までの期間の企業のディスクロージャーを対象として、証券アナリストが評点を付している。損害保険会社における保険料の調整行為および保険金の不正請求問題については、上記の評価期間以降も様々な報道があり、行政当局からの追加の報告徴求命令が出されているなど、いまだその全容が判明していない。したがって、本選定制度の趣旨および評価期間においては、これらの問題が十分に反映できていない可能性がある。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ T&Dホールディングス (総合評価点 73.3点 [昨年度比+7.0点]、第5位 [昨年度第6位])

同社は、自主的情報開示が第4位(64%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位(80%)、ESG関連が同得点第5位(72%)、経営陣の IR 姿勢等が第6位(72%)、説明会等が第7位(77%)となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、総合評価点で7ポイント上昇した。特に、経営陣の IR 姿勢等、説明会等および ESG 関連の伸びが大きかった。

○ 大和証券グループ本社 (総合評価点 72.1点 [昨年度比+8.0点]、第6位 [昨年度第8位])

同社は、フェア・ディスクロージャーが第2位(86%)、説明会等が同得点第2位(78%)、ESG関連が同得点第5位(72%)、自主的情報開示が第6位(56%)、経営陣の IR 姿勢等が第7位(66%)となった。昨年度に比べ、4分野において得点率が改善し、総合評価点で8ポイント上昇した。特に、説明会等、フェア・ディスクロージャーおよび ESG 関連の得点率については、それぞれ10ポイント以上の改善となった。

以上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表（保険・証券・その他金融）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の実況に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価項目5 (配点 26点)	評価項目6 (配点 30点)	評価項目3 (配点 7点)	評価項目6 (配点 29点)	評価項目1 (配点 8点)	評価点	順位	評価点	順位	評価点	
1	8766 東京海上ホールディングス	82.4	22.6	24.8	1	5.8	23.0	1	6.2	1	1		
2	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	77.1	20.3	23.2	5	5.6	21.9	2	6.1	2	4		
3	8630 SOMPOホールディングス	75.2	19.7	23.2	5	5.3	21.6	3	5.4	3	3		
4	8750 第一生命ホールディングス	73.7	19.7	23.3	4	5.3	21.2	4	4.2	7	2		
5	8795 T&Dホールディングス	73.3	18.7	23.0	7	5.6	20.9	5	5.1	4	6		
6	8601 大和証券グループ本社	72.1	17.2	23.5	2	6.0	20.9	5	4.5	6	8		
7	8591 オリックス	72.0	18.9	23.5	2	5.6	20.3	7	3.7	9	5		
8	8604 野村ホールディングス	69.3	16.7	22.1	8	6.1	19.4	8	5.0	5	7		
9	7181 かんぽ生命保険	59.5	14.6	19.0	9	5.1	17.0	9	3.8	8	9		
	評価対象企業評価平均点	72.73	18.70	22.85		5.60	20.69		4.89				

2023年度評価項目および配点（保険・証券・その他金融）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	10
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	5
(4)IRの基本スタンス	
①会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	2
②パンデミック、気候変動、サイバー攻撃などのリスクと機会に対する取組みを積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（30点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	4
④決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	5
(2)決算資料・統合報告書等における開示	
・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
(3)決算発表日	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか（報道機関等への対応含む）。	2
②投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか。	3
4. ESGに関連する情報の開示（29点）	配点
(1)コーポレートガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明がなされていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	4
②社外取締役の選定プロセスや関与について、十分に説明されていますか。	2
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていますか。	6
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEの他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他のKPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(4)E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示	
①E（環境）に関する適切な目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	5
②S（人的資本を含む社会）に関する適切な目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点
・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。[過去1年間を目安に評価]【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	8

保険・証券・その他金融専門部会委員

部会長	村木 正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽 孝一	シティグループ証券
	佐藤 耕喜	JP モルガン証券
	辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
	渡辺 和樹	大和証券

評価実施アナリスト（18名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	丹羽 孝一	シティグループ証券
今井 雅	アセットマネジメント One	橋本 浩	富国生命投資顧問
佐藤 耕喜	JP モルガン証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント	村木 正雄	SMBC 日興証券
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	簗谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFJ 証券	渡辺 和樹	大和証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。